

成城教育

第179号

2018年3月30日

特集 成城学園100周年 ～第二世紀をむかえて～



成城学園教育研究所

「表紙」のことば

幼稚園 宇田直美

百周年を迎え幼稚園の園庭は新しく生まれ変わりました。ツリーハウス「わくわくハウス」、水の遊び場「葉っぱスライダー」「回廊」さらさら橋、木材で出来た舞台「お日さまステージ」、ロッククライミング「石とロープの登り道」、秘密基地のような「けんけん広場」、子ども達が名づけたそれぞれの遊具・施設の好きな場所で毎日遊び駆け回っています。

自由遊びの中で、シートを持って遠足ごっこに行く子ども達がいたり、年中組も半ばを過ぎ、クレヨンの扱いにも慣れてきた事から、子ども達が自分で新聞紙、クレヨン、粘土板を持ち庭に出かけ、新しい園庭の好きな場所を写生する活動を試みました。部屋の中で想像しながら描くだけでなく、目に映ったものを実際に庭で空気や風や光を感じながら表現することをねらいとしました。四人の作者に話を聞いてみました。

右上の作品は、回廊「キラキラ橋」と滑り台、トンネルを描いたそうです。滑り台について「私が滑り台で滑っているの。上の庭から来てシューっと滑って降りるの。」と思いつきように話してくれました。「木が大きくてお空にくつつきそうで、くつついちゃった。お友達としやべりながら描いていたら木の葉っぱがいっぱいになったの。」と描いている時の楽しい様子が伺えます。工夫した所は「トンネルのお山を一度描いてからぐるぐるっと石を描いて、最後に真ん中の丸を描いた。」との事でした。いつもそこでおうちごっこをしているそうです。園庭の中で好きな場所はツリーハウス「わくわくハウス」だそうです。「二階はお家みたいで二階は木の上で寝られる場所」だそうです。

右下の作品について、舞台「お日さまステージ」、トンネル、回廊「キラキラ橋」と滑り台を描いたそうで「トンネルの中は黒くした。」と、暗い様子をよく観察して

います。また緑の葉や小さい木を描いていますが、難しかったところはくねくねした木で「一本のクレヨンを使い描いてみた。」そうです。

左上の作品について、水の遊び場「葉っぱスライダー」、舞台「お日様ステージ」、畑を描きました。水の遊び場「葉っぱスライダー」は「シャワーの近くに茶色い(の)があるでしょう。シャワーの熱い、冷たいところを赤と水色で描いたの。」水で遊んだあと足などを洗えるように設置してあるシャワーに注目したようです。一番好きなのは「お日様ステージ」で、トンネルの前に隠れていて「どうぞー」の声でギターを弾きながら出番だそうです。「座れるところがあつてお客様が座って聞いてくれるの。」と嬉しそうに話してくれました。

左下の作品について、回廊「キラキラ橋」、滑り台、ロッククライミング「石とロープの登り道」を描きました。「キラキラ橋は縞々に描いた。いつも持つところ(手すり)が冷たくて手が冷たくなる。冷たい風の日には手をこしごしして『温かくなーれ』ってする。走ると茶色い(の)床)がいつもガタンガタンで音がするの。」ロッククライミングは「石が色々な形になっている。登って靴を脱ぐところ(デッキ)に行くの。」手すりの冷たさや床の音の感覚は大人には気づかない子どもらしい表現です。

滑り台について、「滑り台をシューって行ったら下のお庭になるの。」まさしくその言葉には、新園庭を作る時に子どもが遊ぶ遊具を考えた我々の想いが伝わっていて、長い滑り台を滑るとそこはいつの間にか下の庭になっている不思議さを実感してくれたと感動しました。

新しい園庭が出来上がり子ども達がどの遊具に興味を持つか、楽しめるかが研究の対象になる時、大変貴重な話を聞くことが出来ました。

成城教育

第 179 号

©成城学園教育研究所

◆表紙：幼稚園年中組 董絆那 波里胡奈 白鳥結夏 原口丈弘

「表紙」のことは 宇田直美

口絵グラビア 成城学園百周年記念シンポジウム

カット 飯田健二

■特集 成城学園一〇〇周年「第二世紀をむかえて」

巻頭言 特集「成城学園一〇〇周年「第二世紀をむかえて」」……清水 大 5

教員からひとこと——現状と課題——

幼稚園……………6

初等学校……………8

中学校高等学校……………15

大学……………

経済学部……………32

文芸学部……………34

法学部……………40

社会イノベーション学部……………42

各センター……………45

一〇〇周年に寄せて——OB教員より——
成城教育に携わる先生方に期待すること……………武田恭宗 46

成城学園「第二世紀の人々に残したいもの」……………鈴木宗明 48

驚き諸々の……………毛利三彌 52



成城、ある日ある時

実践と評価

襲名 または新生

いま夢想していること

〈プラス・ワン〉からの想い

《大学研究室から》

チェコスロヴァキアのテレビ・ドラマと民主主義

《ずいひつ》 日本の伝統文化の心と教育

《ずいひつ》 わたしが木造旅館を好きな理由——当節温泉宿事情——

この人に聞く成城の話 第十一回

いまはむかしのことどもあるいはたそがれのよしなしごと

成城学園百周年記念シンポジウム参加記

本物の教育とは

歴史的なシンポジウムに参加できたことから

成城学園百周年記念シンポジウムを受けて

シンポジウムにて想いをめぐらしたこと

記念シンポジウムに参加して思うこと

今後、学校はどうなっていくのか

「成城小学校と大正新教育」その理念の継承・発展と実践」を聴いて

百周年記念シンポジウムの感想

清水眞澄

田中宣一

横塚祥隆

小島孝之

大隈宏

福田宏

有賀雅雪

木下直也

浅沼圭司

福田奈緒子

保坂弘之

小宮山洋

植松敦

佐藤史章

都築則幸

池上恵子

今井修

55

58

60

62

64

68

73

76

84

92

96

99

102

104

106

108

112

学園第二世紀の出発に際して再提案二件

I. ミクロネシア出身留學生の受入れ

II. 成城ヒュッテ「太極荘」の登録文化財申請

日置二郎 117

ブックレビュー

上村佳孝 著 『昆虫の交尾は、味わい深い…。』

中村雅浩 122

『成城教育』バックナンバーを読んで

第二三二号（二〇〇六年六月三十日）特集 Life is Music を読んで

安川えりか 125

中学校国語科 夏休み課題読書について

松田美穂 127

文献紹介 成城みどりのスタイルブック

荒垣恒明 130

連載 〈成城学園の生き物〉 第二十九回

成城のインコ

岡崎真幸 131

教育研究所報

三階に家なし 其十一 — なにを議論しているのか —

宮崎修多 135

教育研究所への階段

浅野 智 138

編集後記

140